

刊夕日一卅月五

常盤每日新聞

定価 一部全紙五錢、夕刊全紙三錢、郵費別五錢
 発行所 常盤毎日新聞社
 社址 東京都千代田区千代田三丁目三番五号
 電話 六三三〇
 印刷所 常盤毎日印刷株式会社
 印刷 所 常盤毎日印刷株式会社

シナリオ

惱ましき沼 (1)

木津茂太郎

試合

○道場である。二人の若者が面を付けて稽古をしてゐる。

小上惠之助と赤間庄九郎である。

○道場の主佐久間(半身)

○庄九郎は惠之助に勝を得られる。

無念な庄九郎

○さびしい裏通り。

○惠之助が来るのを庄九郎等五六人が待つてゐる。

(全景)

○立止つて振り向く惠之助

(次へオーヴァラップ)

○憎々しく笑む庄九郎

○小上命をもらふぞ!

○は、あ試合に負けた恨みか来い

○と云ふ惠之助

○争ふ。

○惠之助は肩へ刃を受け倒れる。バラ／＼と去る庄九郎等。(溶暗)

○谷川村(溶明)

○そいふ歩きする惠之助。縋帯をして着流しである

○村の娘『月姫』と異名されるお稲が大根を川の流れて洗つてゐる。

○通り掛る惠之助は、お稲と顔を見合してほ／＼と

お稲は惠之助——町から来た若い侍に戀してしまつたのだ。

○書見する惠之助。——その寄偶する家の主夫婦や娘等と談笑する惠之助。

○ぼんやり脊戸の木に倚り掛つて居るお稲をやとわ

れてゐる少年が通り掛つてポンと脊をたたく。

○何を考へてゐるの

お稲がいつくする。ツンと向ふを向いて其處を離れる。少年は行つて了ふ

○惠之助とお稲とは親しくなつて行つた。

○小日向沼(溶明)

○山間の緑の中に明るい沼があを／＼とた／＼とへてゐる(全景)

○カメラが沼の周囲を廻ると岸の一点へ来る。

○惠之助とお稲が手を握り合つて坐つてゐる。楽しい／＼語らひ。うれしいふたり。

○村の若者友次はこの二人の姿をじつと見守つてゐる。くやしいやうな悲し

い／＼やうなその表情。

○友次の戀は切なかつた。

○友次の心は『月姫』を欲した。『月姫』の方へばかり傾いてゐたのだ。

○齒を噛む友次(半身)

○あ、の町から来た生白い侍奴!

○或る日、月姫はいやお稲は町の方へ田圃の中の路を歩いて用達しにゆく。

○友次は町へむしるを賣りに行つたかへり道。

○お稲と友次はひろい田の中で出會ふ。

○友次は下をむいてすれ違ふ。

○お稲は言葉を掛ける。

○友次さんではないかえ

○友次は云ふ。

○お稲さん

○友次は胸の中を打明けることの出來ぬ内氣ではにかみ屋である。

○彼は平凡な容貌をしてゐる。『月姫』を、可愛い『月姫』を取られた

○あの町の若侍に

○彼はさう解釋したのであ

る。

市原醫院

平町 田町

電話 一四番



堂々

斯界の群を抜く

最高級車プソモス號

今般増車致しました
何卒御用命は

電話三九五番へ

セリザワタクシー

耳鼻咽喉科専門

増田醫院

平南町 (電話四八二番)

度量衡、計量器、吸入用酸素、酸素吸入器

關内藥局

電話四〇番

造花

町川新町平
屋本橋

電話一三六番

吉田眼科病院

平南町、電話六八番

正札堂の夏服

小學生用 三十五錢ヨリ
 特製 八十五錢ヨリ
 中學生用 一四七十錢ヨリ
 正札堂特製品 式四也

正札堂洋服店

電話三六

お客様本位の……

好適の眼鏡



正一常盤屋時計店

江戸前料理

御家庭……御膳二人以上

松 一人前 一圓五品附
 竹 同 一圓廿錢同
 梅 同 一圓五十錢同

ゼヒ一度御試食下さい

仕出し 錦水

電話五四番

弓道名手の

妙技に接す

射覺院師範を

平町に招いて

平町弓道愛好家連は弓道手練のため来月二日仙臺市に向ふ大日本射覺院師範大平善藏氏を招聘し一丁目裏弓道場に於いて同日午前十一時より同師の妙技に接する事になつたので目下内郷、湯本、好間、磐崎等へも出席勧誘中である。

指導標設置

佐藤氏が寄附

石城郡内郷消防組頭佐藤三平氏は此程同村主要地点に設置する數十本の指導標を寄附したので廿九日消防全員が出動して設置作業に従事した。

病害発生せぬば

平年作との見込

石城地方の田植

最盛期は十五日頃から

田植の期節が接近したので神谷農事試験分場では連日気温及び苗代の傳染病等に就いて氣を揉んで居り同試験場の田植は来月十八日に行はれるとの事であるが一般農家の田植は十五日より廿日頃迄が最盛期と見られて居ると尙本年の苗代は目下の處割合順調に發育して居るので病害の發せぬ限り平年作迄には及ぶであらうと。

家屋賃貸價格

千三百圓の減

平町の家屋賃貸調査委員會廿八日漸く完了したが決定

オール平

福島へ出場

野球團オール平にては来五日午前九時より福島市營グラウンドに於て開催される都市對抗野球戦に左記選手出場のため四日平發午四時

四十五分にて出發すると

(投)佐藤 熊 淺妻 伊藤(捕)大野 山崎(一)鈴木(二)水竹(三)櫻田(遊)織田(中)大平 本間(左)久保内(右)森

法曹商業庭球

曹團對平商業學校の庭球試合は来る二日午後四時より平商コートに於て舉行されると

生死を差引

五十七名増加

平町の戸籍統計

最近平町役場で調査した昨年四月より本年四月迄の一ケ年間に於ける死亡者数は男二百三十九名、女九十九名、計四百三十八名、出生者数は男二百四十九名、女二百廿三名、計四百七十二名にて差引一ケ年五十七名づゝ増加して行く譯であるが死亡原因は

△流行傳染病、八十四名
△神經系及感覺器疾患、七十八名
△呼吸器疾患、七十八名
△乳兒、四十二名
△肺結核、四十四名

豊作が却つて仇

麥價四圓臺を割る

刈取る元氣もなくなると生産家が大コボシ

石城地方の麥作は非々色付き良く早生種は六月十日頃から刈取りを始める模様であるが今年の作柄は豫想外に 良好で病害も殆んどなく倒覆も未だ見られないので近年にない豊作は確實となり又全國的の豫想も大増收を示してゐる結果昨今の麥價は漸落歩調

持堪えて、あつた農家がこの十日間ばかり一齊に手離し出した爲ガダ落となり二月乃至三月中旬ころ一石九圓臺を往來したものが實に現在では四圓を崩れる暴

落振りてこの分では食用に供し得る程度にまで調製し

て尙一升六錢を越すことは困難だらうと觀られてゐるので生産家はこれでは刈取る元氣もなくなつてしまふと大コボシの体である

農家の生活

状態調査

石城郡農會にては行詰れる農家經濟の打開策を構ぜん

生徒健診

營養不良なし

平商業學校生徒四百名の内本年度のトラホーム患者は七十名、齲齒罹患患者百九十六名であるが營養不良は一

移讓の礦産税

自動車啣筒購入

石城郡内郷消防組は現在消防機關としてガソリン啣筒二臺のみである爲め過般來自動車啣筒購入の要求が起り昨卅日村役場に於いて村會を開いた結果昭和八年度に於いて新たに礦産税の移讓から三萬五千圓の村収入が有るので是れを財源に充當すべく決定したと

磐中生の家庭訪問

磐城中學校にては此程職員會議を開いた結果各教諭が手分して成績操行不良生徒の家庭訪問を近く開始する事になつた

日星しい物は一つも無い

係員も舌を巻く

悪水豫防費の整理

目星しい財産何一つなく係員も殆んど持て餘した由

体操講習出席 平町各小學校にては既報の如く本日午前九時より草野小學

人もないと

校に於て水野縣視學及び富田体育主事指導の下に開かれる巡回体操講習會に左の如く訓導を出席せしめた
△第一 小林武 藤田力
△第二 渡邊啓二 大須賀百世 玉木英明
△第三 石田伸六郎 吉田功

磐女映畫觀覽

磐女映畫觀覽 磐城高等女學校にては本日午後二時より全學生が各組主任引卒の下に平驛前世界館に於て教育映畫ナポレオンの觀覽をなした

平第二對世界館

昨三十日午後三時より平第二校職員對世界館の軟式野球戦を第一小學校庭にて行つた結果四對三で世界館が勝を得た

内郷村會が決定

金融

銀行員、鐵道員、教員、有給官吏、確實

ナ御方ニ貸シマス 希望者ハ返信料ヲ添へ住所氏名職業金額ヲ明記シ御申込下サイ

常磐商會

親切、秘密、迅速ニ融通シマス 常磐線平町舊城跡四十二

ビクターの小唄に

磐女の新妻氏當選

然も一等賞の榮冠を

磐城高等女學校教諭新妻熊男氏は今回ビクター蓄音機會社募集の福島縣代表民謡を應募し北原白秋、野口雨情、町田嘉章、中山普平の諸氏審査の結果一等當選の榮冠を擔つたが歌詞左記の如くである

一、げんじよ待ち／＼

磐梯山は雪だ

おかよいづまで

出て見てる

二、向ふ萱原

吉さが通る

空は夕焼

流山

三、雪見炬燵に

ほんのり染めた

東山妓の

頬のいろ

四、主と乗りたや

三春の駒に

たづなはなして

五、馬で通れば

村の娘が招く

關の勿來は

花吹雪

尙本日同氏を學校に訪へば満面に笑を堪えながらも謙遜して語る

「一休民謡は一個人の手によつて勝手に作り上げ之を縣の代表民謡など、すべき性質のものではないくその地方々々の人情と

女子部

獨立

理髮組合 分離實現

平署管内理髮業組合第一部(平町)の女子組合員四十餘名は昨年來より組合の集會に於ける時間問題並に經濟方面の事情からして獨立せる女子の組合を設置すべく各方面に運動を起して來たが種々な事情にて今日迄實現を見るに至らなかつた處最近女子會員の猛運動奏効し伊藤署長の斡旋に依つて愈々第一内部の女子組合が其筋より許可される事となつたので本日午後四時より平署會議室に女子組合の創立總會を開き各役員及び組合規定會計の獨立等に就いて協議を行ふと

成功を夢見た少年

方角に迷つて

家人に引渡さる

昨日午後五時頃平驛待合室に一少年がマゴ／＼して居たのを平署員が不審に思ひ本署に引致して事情を聞くと同人は宮城縣志田郡鹿島臺村字谷居住農家雅之助次男花澤庄一郎(七)で去る廿日夜成功を夢見て上京せんと衣類數点と僅かな金を持つて無斷家出し昨日午後一時上り列車にて平驛に着し好間村に働いて居る義兄齊藤純なる者を探ねんとした方が方角が解らずに居たものと判明直に家人に照會を發し同夜八時家人の手に渡された

鎌田新興青年が

純益を貧困兒へ

本日寄附を申出づ

劇と音樂の夕べが成功

平鎌田町新興青年會にては既報の如く去る二十八日午後六時より第三小學校講堂に於て本社後援の下に「劇と音樂の夕べ」を開催し頗る盛會を極め大成功を博し

明日のラジオ
 今晩の部
 後六、〇〇 子供の時間
 後七、三〇 義太夫「さわりの夕」(生寫朝顔話)竹本静香、豊澤仙玉(壺坂靈驗記)竹本駒吉、野澤象造(心中天の綱島)竹本素昇、豊竹巴住(三十三間堂)竹本綾千代、竹本重八(伊勢音頭戀双)竹本伊達子、豊澤猿身

明日の部
 後九、四〇 全國ニュース
 氣象通報 番組豫告

後二、〇〇 家庭大學講座「現代と基督教」塚本虎二
 後六、〇〇 子供の時間
 後六、二〇 お話コードモの新聞 東京中央放送局子供の新關係
 後七、三〇 講演「人に親しむ動物、馴れがたい動物」京大教授川村多實二
 後八、〇〇 BK開局記念の夕(浪花節乃木將軍)傳京山若丸
 後八、四〇 (落語孝行糖)笑福亭松鶴外お囃子連中
 後九、〇〇 (長唄教草吉原雀)松永和風外
 後九、三一 奉天より 六月三日まで中止

鹿島遺族慰問 石城郡鹿島村在郷軍人分會では同村出身在滿兵三氏の家族を慰問する爲め廿八日午後一時より分會員青年團等の幹部が歴訪家族の生活状態を視察したと

一網五千圓

小名濱大敷網 久振りの鯛漁

石城郡小名濱町の大敷網漁獲は最近餘り成績思はしくなかつた處昨日日鯛二千圓、鯖三千圓の漁獲は近來になり活況を呈して居るが鯛の取引相場は廿五掛けである

平裁判所便り

△石城郡小名濱町字橋本八番地肥料商小野善助(三)は今年五月無免許にて茨城縣多賀郡磯原地内に於て貨物自動車運轉し自動車取締令違反として科

△同郡錦村大字倉字中迎百三番地根本秀松(三)は本年二月四日錦村大島地先國道に於て鹽銼販賣中勝手に分銅の垂紐を修理したる秤を用人根本作間に使用せしめ度量衡法違反として罰金十圓

△双葉郡久之濱町大字田之網字江之網二十三番地田中菊太郎(三)は機船底曳網漁業を営む者なるが本年四月二十六日自己所有の石油發動機船龜松丸に

平職業紹介所報告

回求人部
 △農夫 五十才以下 委細
 △農夫 鹿島村某
 △農夫 四十五才以下 尋卒 給料面談(高久村某)
 △小商店員 十八才 高卒 月五圓外仕着(平町某)
 回求職の部
 △洋服工 十六才 高卒 給料面談(内郷村某)
 △女中 十六才 尋卒 給料面談(川前村某)
 △電氣工 二十三才 高卒 給料面談(勿來町某)
 △事務員 二十六才 工業 給料面談(愛知縣某)



【禁轉載上演及映畫】

悟道軒圓玉演
近藤紫雲畫

第六十三席 眞庭念流達人櫻井五助

上野淺草見物

櫻井五助は武藏屋の子分
長太郎を案内者として京橋
の五郎兵衛町をあとに北を
さして上野まで来た

五「アーこれが東臺か」

長「何んでございますえ」

五「イヤサこれが東臺か」

長「莫迦な事を云つちやア
いけねえこんなお前さん大
きな燈臺があつたところで
こいつへ點す蠟燭がなから
う」

五「イヤ灯を置く臺ではな
い、上野の事は東臺と申す
比叡山に象取つてこしらへ
たものだなこの左にある池
は不忍であらう」

長「ヘーさうでございま
す、辨天様を祀つてありま
す」

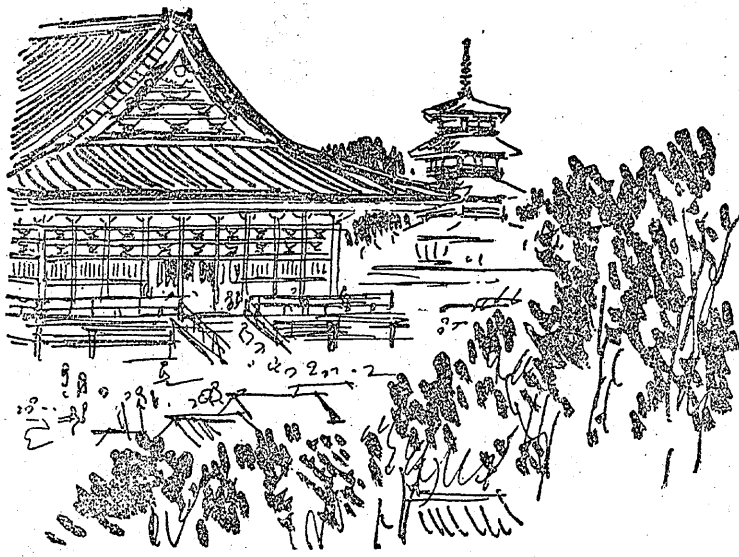
五「好い所だな、それに冬
期の所であり一層山に雅が
ある」

長「何んだか寒い時は陰
氣でいけねい、山の中は皆
臥てゐるやうだ」

五「さうだなア天地は正
直なものだ、春になれば花
を咲かせ、秋になれば實を
つけ、冬になるとこれをこ
ろして又來年の春をまつ、
これが何萬年も續き居る、
少しも間違つた事がな

その間に生を得た人であれ
ば天地と同じやうに正直に
いたさばなるまい」

長「先生、説教をしてはい
けません、何うですな棒の
やうな木の間に縫ひながら
歩いてゐたところで風情が



ねい、淺草へぶつくらせる
ことにしませう」

五「ハ、ア淺草と申すとこ
ろにぶつくらせると云ふも
のがある、それは何ういふ
形をいたして居る」

長「さあ此方へお出でなさ
い、先生、茲は廣徳寺だ、
禪宗寺でね、この門が大し
なものだ、左甚五郎と五郎
正宗と二人でこしらいまし
て」

五「それはをかしいの、左
甚五郎は番匠であれば門を
つくるであらうが、正宗は
刀鍛冶だ、それが門を造ら
へる事はあるまい、それに
左甚五郎は寛永時代の人で
正宗は鎌倉の北條時代、大

ね、こゝは田原町でさア廣
小路へ来た、左にあるは奴
鰻、淺草の名物だ、この後
にあるのが蛇骨湯でござい
ます」

五「何んだじや、こつゆと
は」

長「錢湯をこしらへた時に
井戸の中から蛇の骨が出た
それで蛇骨湯と云ひます」

五「それは蛇骨湯であらう
じやこつゆは聞きづらい」

長「さう云はなけりや威勢
が悪いや、こゝは雷門だね
え、先生、雷様と風の神が
門番してゐます、雷は大鼓
を背負つて風の神は大きな
袋を持つてゐて、あの袋を
ひらくと風が吹き出すさう
だ」

五「昔の人は意匠にたくみ
であるな」

長「何だか知らねえが雷も
風の神もうまく出来てゐる
さうでございます、茲でお
こしを賣つてゐますが、こ
れは名物の雷おこし、その
隣も江戸名物の菜飯、五十
六文出せば飯が食へる、安
いものだ、オットこゝは仲
見世、右の方は辨天山、左
は因果地藏、こゝが糸の平
内様、萬山さん何時も達者
で結構だ」

挨拶をする糸の平内の
前に立つてゐた老人がシヨ
ボ／＼した目の長太郎を見
て

〇「オヤ／＼来たか長さん
待つてたよ」

長「馬鹿にしてゐやあがる
先生これは仁王門だ、大き
な草鞋が下つてゐるぜ、こ
れからお堂でございます

五「立派なものだな」
長「六八間四面こゝの主の
観音様は一丈八分一寸八分
のお姿で十八間四面の居付
地主わつらは五尺四寸ある
がね、未だに九尺二間にも
住むことも出来ねえ」

五「愚痴を申すなよ」

長「どうです大層額が上つ
てゐらアそれにね、この大
きな柱に穴があいてゐませ
う、これは辨慶が拵指で押
したら回んださうで大した
力があるね、オヤ／＼お賽
錢が落ちてゐる」

五「コレ袂へ入れるな」

運動靴は……

月星

品質は斯界の王

名入れ金具付きの

サービス

平田町

大塚運動具部

電話七七番

Advertisement for 'Meiji' (梅毒) medicine, listing symptoms like skin disease and venereal disease, and the name of the clinic 'Ryukyo Hospital' (院醫科).

Advertisement for 'Warrior Figures' (戦勝人形や武者人形) and 'May Festival Figures' (五月大形人形), listing various items like armor and weapons, and the shop 'Suganoya' (スガノヤ提灯店).

Advertisement for 'Mitsui' (三井) and 'Takushi' (タクシー) products, listing various items like 'May Festival Figures' (五月大形人形) and 'Takushi' (タクシー).

Advertisement for 'Shinshui' (神水) medicine, listing symptoms like eye pain and listing the shop 'Kobayashi Pharmacy' (堀薬局).